

第34期長崎県社会教育委員会 第4回委員会 議事録

開催日時	平成29年8月21日(月) 16:00~17:00
開催場所	諫早市立西諫早小学校会議室
出席者	<p>【県関係者】 県社会教育委員、県生涯学習課</p> <p>【諫早市関係者】 西村教育長、諫早市社会教育委員、西諫早小学校校長、教頭、 学校支援会議委員、諫早市生涯学習課</p>
開 会	<p>(進行) ただ今から、意見交換会を始めます。</p>
委員紹介	<p>県社会教育委員 諫早市社会教育委員 県生涯学習課員 諫早市生涯学習課員 学校支援会議委員</p>
意見交換会	<p>○学校支援会議を視察し、感想や良かったと思われること</p> <p>(諫早市委員) 学校と地域が一緒になって活動している一体感が感じられた。</p> <p>(県委員) 親の役目が終わり、今は地域のためという立場で取り組んでいるが、今日地域の皆さんが地域の子どものために頑張っている姿を見て、改めて自分も頑張ろうという意欲をもらった。</p> <p>(県委員) グループ協議では皆さんが笑顔で語っている姿が印象的であった。それぞれ自分の役割に責任を持って主体的に取り組んでいるからだろう。それにしても、なぜそんなに主体的に動かれているのか、その仕掛けは一体どこにあるのか。</p> <p>(県委員長) コーディネーターが全体的な調整機能を持っているからだろうと思うのだが、各班にはそれぞれ班長がおり、そしてその班の中には地</p>

域の人がいる。地域側からも学校側からも「こんなことがしたい」と要望があがってくると思うが、コーディネーターが窓口として受け付け、それを関係する班に伝え調整しているのか。

(コーディネーター)

それぞれ班からあがってくる取組について、「ああだ、こうだ」とは一切言うことなく、各班長にお任せしている。私は、事後報告を受ける程度である。

(図書ボランティア)

自分がこの学校支援会議に入るまでは、外部の者が学校に入るなんてありえない時代だった。しかし、当時の校長先生の地域の人を大事にしようという思いと学校をどうにかしたいという熱い思いから、「私にできることでよければ」ということで参加するようになった。さらに、校長先生の熱い思いがどんどん伝わってきて、みんなが同じ方向を向いて学校の運営に参加できるようになったことが良かったのだと思う。

(進行)

当時の校長先生の強いリーダーシップと熱い思いが、地域の皆さんの心を突き動かしたということですね。

(学校支援会議委員長)

その校長先生が赴任され、4月当初に校長室に挨拶に伺ったときのことだが、学校支援会議のことが話題になった。私は校長に、「この地区で学校支援会議に反対する者は誰もいないでしょう。むしろ、地域の皆さんが後押ししてくれるはずだ。」とお伝えしたことがある。赴任1年目で学校支援会議が立ち上がったのだが、やはり校長のリーダーシップを感じた。

(諫早市委員長)

最初のきっかけである校長の声かけもだが、その声かけに対して、地域の中に動ける体制が整っていたのが非常に大きいのかなと感じた。学校と地域のつなぎ役としてコーディネーターの存在が問われるのだろうが、学校にも地域にも振り向かせるような旗振り役は誰なのだろうか。どういった方をキーマンにすればよいのだろうか。

(県委員)

地域のポテンシャルの高さや裾野の広さ、関わる地域の人々の多さに驚いた。壱岐市の霞翠小は学校規模が小さく、地域の方を集めるのに苦労している現実がある。コーディネーターというのは地域のことを

よく知っている方でリーダーシップや人間的にも魅力があり、そんな方に声をかけてもらおうとみんなが動いてくれるというイメージがある。それ以上に、声かけがありそれに応じてくれる皆さんの志の高さはどこから来るのか、耕されている地域性はどこから来るのかなと感じた。また、それぞれの班がそれぞれに活躍していることが驚きなのだが、それぞれの班を一つにまとめる力や、共有の目標、それぞれの活動に対して評価をして次の活動に生かしていく、その仕組みにとっても興味がある。

(進行)

地域のポテンシャルの高さ、志の高さはどこから来るのだろうか。

(コーディネーター)

昨年、隣の学校が創立70周年を迎えることになった。しかし、記念式典のことで学校側から計画や案内もなかった。しかし、学校は先生のものでもないし、生徒のものでもない。地域のものである。生徒のお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん・・・の中にはその学校を卒業されている地域の方がたくさんいるので、地域で古希のお祝いをやろうということになり、自治会長に相談し呼びかけてもらい寄付を集め、お祝いをすることができた。やっぱり地域が要だと思ったしただ。

(学校支援会議委員長)

この校区は地域のつながりが非常に強く、会長の一声でいろんな団体の方がすぐに集まってくれるし、何か困りごとがあったときに相談すれば、必ず何とかしてくれる方が多い。しかしそれは一部の住民である。実は地域には、それ以上に学識のある方などたくさんいらっしゃるので、そういう方の情報を入手し、皆さんに声かけ、つながりを広げていきたい。

(県委員)

それぞれの班の活動に、そして、そこにいる皆さんの豊かな経験や引き出しの多さに感心させられた。その中で、組織立った安全安心班を作って活動しているということは、学校にとっても頼もしい存在だろうと思うのだが、その苦勞とかあればお聞きしたい。

(コーディネーター)

民生委員児童委員お一人お一人に、4月になれば「今年は何をしようか」といった意識があるので、全て自主性にお任せしている状況であり、自分としてもお願いするだけである。

(県委員)

グループ協議で出た皆さんの意見から校長先生の熱い思いを感じることができたが、どうしたら学校側の受け身でない思いを引っ張り出すことができるのか、そのコツを教えてください。

(コーディネーター)

会議の場で意見を言い合うのも大切だが、とにかく校長先生とコミュニケーションをとって、校長先生の思いを引き出している。

(進行)

学校支援会議に対する意見等はないか。

(県委員)

自分は昨年から民生委員児童委員として学校支援会議に参加しており、まだ勉強する立場である。西諫早小学校が内容の充実した活動を行っているところに感心した。じゃあ、これから子どもが減っていき保護者も減ってくる中で、学校支援会議が持続可能なものとなるためには何が必要なのかと考えた。今、高齢にもかかわらず学校支援会議で頑張っておられる皆さんの跡を継ぐ方が育っているのか心配になった。PTA役員のなり手がいないとか、学校もPTAも動く気配がないとか話があったが、この若い保護者を巻き込まないと続かないと思っている。今日の会議を視察し疑問に思ったことは、小船越地区で始まった通学合宿が今では全区に広がったというが、参加者が小4～6年生のわずか20名前後というのは、人数を制限しているからなのか。本当に広がっているというのであれば、小船越以外でもあって当然なのに、広がっていないということはどういうことなのか。また、先ほどの図書ボランティアの方の話では、校長先生とたまたまお知り合いだったから学校支援会議に参加できたわけだが、地域のほとんどの方は知らない方ばかりである。そういう地域の方に対して、学校はどのようにして情報を伝えているのか。

(諫早市の方々から)

学校だよりを校区の全世帯に回覧して伝えている。

(学校支援会議委員長)

先を見越した活動となるよう、40代の者と一緒に活動し、跡継ぎを育てている。

(通学合宿関係者)

先ほどのお尋ねの件で、通学合宿は公民館で実施しておりスペースが限られているので、人数に制限を設けている。希望者が多く抽選も

行っている状況である。クラブ活動や塾等で忙しく、通学合宿に参加できない子どもも多いようである。一方で、兄弟が参加したということで、自分も絶対に参加するんだという意欲を持った子どももいて、うれしい限りである。

(県委員)

P T A活動をされている方と地域の方との温度差はいかがか。

(学校支援会議委員長)

歴代会長との縦のつながりがあったり、役員は会議にはよく参加してくれたり、連携は取れていると考える。ただ、こういった学校支援会議の会合等には、会長や副会長だけといったことが多い。それでもP T Aの行事等には会員も多数参加し、手伝いやサポートに協力してくれる。

(諫早市委員)

小中学生の子どもがおり、その学校のP T A役員をしているが、その学校では会長のみが学校支援会議に参加し、自分への参加の要請はない。今日この会に参加させていただき、とてもよい話を聞くことができた。このような機会を副会長のみならず多くの保護者にも見ていただき、地域からたくさんの愛情を注がれているということを知っていただきたらと思った。知る機会を持つことが、いずれ自分たちが子育てを終えたとき、今度は自分たちが地域のためにという思いを持ってくれるのではないか。

(県委員)

地域で活動している団体との連携はどうなんだろう。自分は婦人会として学校に関わり、環境問題や生ごみ堆肥、ミシンのサポートといったことをさせていただいているが、P T Aの保護者の顔が見えてこないことがある。そこで、以前はこちらから保護者に情報を発信していたことがあったが、改めて広報活動の必要性を感じたところである。

(進行)

学校支援会議の見える化が必要なのだと思う。P T A会員にどんな活動をしているのかを見せる、知らせる。社会教育関係団体にもその活動を見せる、知らせることが大事なのだと思う。西諫早小学校の場合は、地域の方々に見える化を図っており、その取組が地域の力の高まりを育てているのだろうなと感じた。

(県副委員長)

学校支援会議を含め、いろんな団体がどういった方向性で行っているか、どこに収斂させていくのかを明確にする必要があるのではないかと。今日の会議は、西諫早小学校の学校経営方針や重点目標等が、学校支援会議を含めて地域の中にどれくらい伝わっているのかといったところでの話し合いがされたと思う。学校支援会議については3つの要素があるが、学校の教育の部分で、地域のそれぞれの人によくスポットが当たり、ここに住んでいることに生きがいを持つような形のアプローチで構成されていくのではないかと考える。そういう意味では、西諫早小学校は努力されていると感じている。また、自分たちでできることを逆にあえてできない振りして、地域に助けを求めてどんどん仲間を増やしていく。自己完結に終わらせずにもっと開いていくという試みもしてよいのではないかと考えている。

(県委員長)

たいへん多様で分厚い取組を見せていただき、県の社会教育委員会としても勉強になった。学校支援会議は常々名称が悪いと申し上げてきた。学校を支援する会議、子どもや学校のためだけに支援する会議体だと誤解されてしまいがちだが、学校支援会議は基本的に子どものために、学校のために、そしてそこに参加する子どもの親のために、そこにつながっていきながら結果的に地域が元気になっていくという目的を持って進められるものである。私は、連携が実質化したものが協働だろうと考えているのだが、そういった意味では、今日の西諫早小学校の学校支援会議は実に連携を前提として、具体的な活動を通じた協働の姿が見えている素晴らしい会議だったと考えている。なかなかうまくいかない地域というのは、誰かに大きなし寄せが行っている。お互いがつながっているのではなく、ある部分にだけ強いプレッシャーがかかってうまくいかないのだと思う。しかし、学校にとっても子どもにとっても先生にとっても保護者にとっても地域にとっても非常によい活動、今日のように参加している皆さんが笑顔で話しているという状況は、学校と地域がよい関わり合いができている証拠である。西諫早地区という大きな単位の中でこれだけの活動を続けてきているのだから、課題や問題がないわけがない。しかし、西諫早地区の学校支援会議というものがなかったらどうなるだろう。おそらく地域は人と人のつながりが希薄になるし、親もつながっていないという状況になる。積み上げられた活動は一朝一夕に生まれたものではなく、いろんな活動を一つ一つ積み上げてきて今にある。今ある課題は今いる人で解決していく方向性を作っていけばいいだけの話であって、なかったら課題はそのまま放置せざるをえなくなる。その点、西諫早地区には素晴らしい土壌があるんだろうなと考えている。大事なことは組織である。組織は人のつながり、団体のつながり、思いの

つながりである。協働活動は目標であり理念である。その理念を実現していく具体的な活動を持っていることが素晴らしいことである。そしてそこには、必ずリーダーや調整役のコーディネーターといった素晴らしい人材がいる。組織と人材と活動が非常に整った素晴らしい学校支援会議だと思った。今後、「地域社会総がかり」をキーワードとする学習指導要領が改定となり、学校は教育課程をどんどん地域に開きなさい、そのために学校はちゃんと調整できる能力を持ちなさいという時代になる。つまり「チーム学校」という考え方は、西諫早小学校の校舎の中だけではなく、先ほど「学校は地域のものだ」とおっしゃったが、まさにそれを体現できることが今後の学校経営の軸になってくる。だから、社会教育や学校教育といった行政が縦割りに動いていたのでは、物事は進んでいかないので、地域に社会総がかりを求めていくのであれば、少なくとも教育行政総がかりで物事が進められる行政環境をどう作っていくかが一つの課題なのだが、西諫早小学校の取組は、何でもかんでも行政に頼っていくという公助の意識ではなく、自分たちでやる、協力してやるという自助共助の関わり体制を作っているところも素晴らしいと感じた。教育は国家百年の体系というが、百年といわず30年後の西諫早小学校の地区はどうなっているのか、西諫早小学校の子どもはどうなっているのか、老人会は、婦人会はどうなっているのだろうか。今後、地域を支えてきた社会教育関係団体はどんどん縮んでいくし、子どもの数が減ってくればPTAの数も減ってくる。そういう状況の中で、学校支援会議が今後どういう形で発展していけばいいのかという課題は、今後も残っていくのだろうと思うのだが、そこを考えていく母体が西諫早地区にはある。だから、少し弱いと感じた子ども会の関与や婦人会の関与について考えていただければと思う。今日はよい勉強をさせていただいた。よい出会いをさせていただいた。長い時間、充実したよい時間を過ごさせていただいたことに感謝申し上げます。

閉

会

(進行)

これをもちまして、意見交換会を終了いたします。

17時00分 終了